

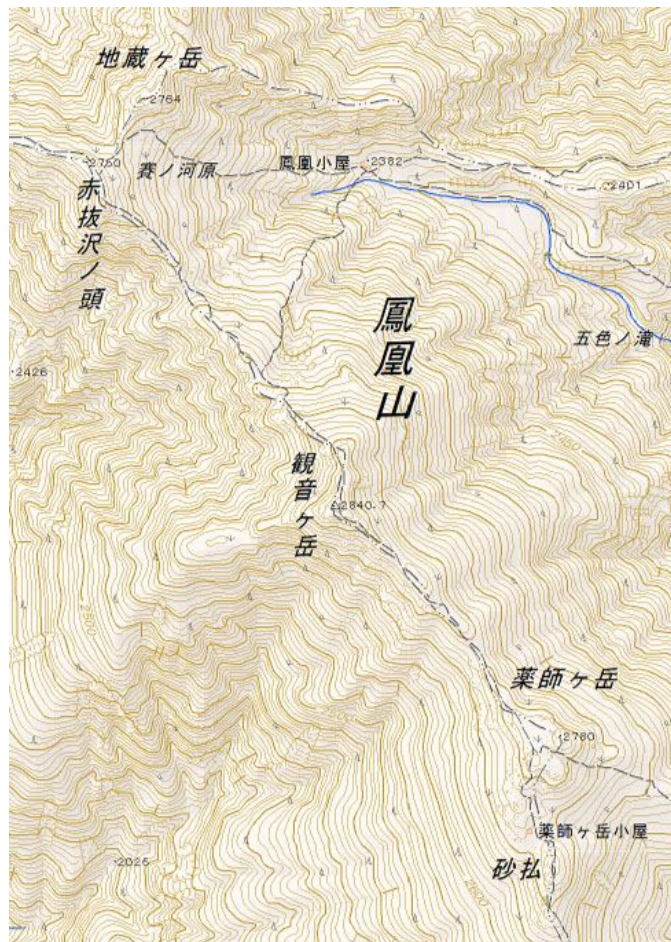
「中央本線の車窓(8)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

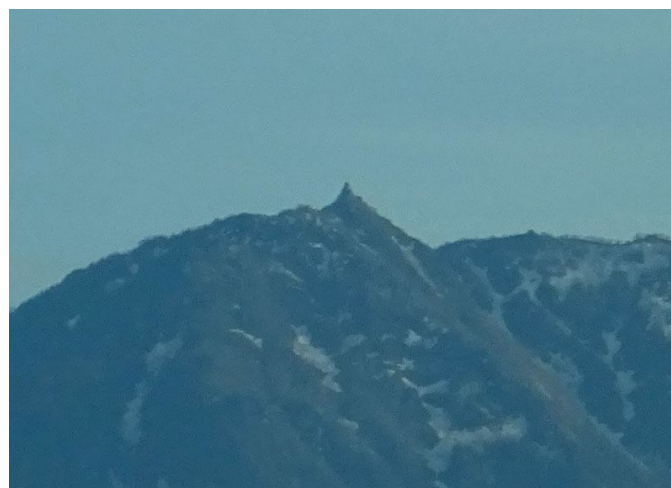
田中 千尋 Chihiro Tanaka

南アルプス(赤石山脈)は山が奥深く、北アルプスのように山小屋の整備も進んでいない。今はどうかかわからないが、南アルプスの山小屋(たとえば赤石岳)などは、基本的に食事は出してくれなかった。縦走も一週間近くかかるコースもあり、どちらかと言えば、かなり健脚向きの山と言える。そんな中でも、鳳凰三山は、途中山小屋で1泊すれば縦走でき、比較的楽にアルペン的な景観を楽しめるので、人気が高い。



鳳凰三山は、全体的に新第三紀(約1400万年前)に形成された「花崗閃緑岩」で構成されている。それが侵食を受けて、現在の急峻な山稜を形成している。地形図を見ても、その急峻ぶりがわかる。麓(登山口)からいきなり急登に入るのも特徴だ。

もともとは山塊全体を「鳳凰山」と読んでいたが、現在は3つのピークを独立して呼び、現在は三座合わせて「鳳凰三山」と呼んでいる。日本人は「高水三山」「魚沼三山」「小川三山」など、山を3つセットにして呼ぶことを好む傾向にあるようだ。



「小川三山」(埼玉県比企郡小川町)

現在、私の両親が住んでいる小川町のマンションからの眺め。左から堂平(元東京天文台)、笹山、笠山。

何といたっても特徴的なのが、地蔵ヶ岳山頂の突起だ。見る角度では、槍ヶ岳(やりがたけ)そっくりに見える。これは人工的なモニュメントではなく、花崗岩の尖塔である。岳人からは「オペリスク」と呼ばれている。私はこの尖塔によじのぼって、自力で降りられなくなり、助けてもらった思い出がある。



(国土地理院提供)